



熊野本宮大社の移築再建 — 明治22年水害からの復興プロセスを探る —

明治22年の十津川大水害により甚大な被害を受けた熊野本宮大社
しかし、約1年7ヶ月という短期間で現在の地に再建復興しました。

近年の研究によって新たに明らかとなった
この復興のプロセスを講演会とパネル展によって紹介します。

■ 落合知帆氏 講演会 入場無料 事前申込不要

3月29日(日) 13:00-15:00

「なぜ、短期間で移築再建できたのか？」長年にわたり本宮町内で調査・研究を続けてこられた専門家を講師としてお招きし、当時の状況やその背景について詳しくお話を伺います。



落合知帆 (Chiho Ochiai) 京都大学 地球環境学堂 准教授

米国カリフォルニア大学デービス校人文学部社会学専攻卒業後、京都大学大学院地球環境学堂にて博士を取得。専門は災害社会学。

田辺市本宮町では、2011年の大水害に関する地域住民・行政対応に関する研究や水害を記録した冊子の作成・ポスター展示、水害対策としての伝統的なアガリヤと復興住宅に関する研究、土河屋地区の風害対策として住宅と石垣に関する研究などに取り組んでいる。

■ パネル企画展

3月27日(金) ~ 4月15日(水)

水害発生から復興の過程や社殿の変容の様子など、22枚のパネルで解説します。

本研究の一部は(公財)松井角平記念財団および(公財)河川財団(河川募金)の研究助成を受け実施しました。

世界遺産熊野本宮館 北棟 企画展示コーナー

和歌山県田辺市本宮町本宮 100-1 TEL 0735-42-0735

開館時間：09:00-17:00

観覧料：無料

主催：京都大学大学院地球環境学堂、熊野本宮大社

協力：本宮公民館、世界遺産熊野本宮館

監修・調査・制作：落合知帆(京都大学大学院地球環境学堂・准教授)、梶田真司(京都大学大学院工学研究科・修士)、杉中瑞季(京都大学大学院地球環境学堂・助手)

デザイン・編集：杉中俊介(多和良屋 studio tawaraya)

協力・写真提供：熊野本宮大社、田辺市本宮行政局、和歌山県世界遺産熊野本宮館、和歌山県立博物館、和歌山文化財センター